



六煌祭特別号



第21号

令和2年11月2日発行
タイトル：久保田美羽さん

* 六煌祭を終えて

10月17日（金）に六煌祭を実施しました。感染症対策のため、保護者の皆様には、来校を遠慮していただくようお願いしておりました。おいでになりたい方もたくさんいらっしゃったこととお察ししますが、皆様のご理解とご協力のおかげで、成功することができました。心より感謝申し上げます。六煌祭の成功のために、準備段階から大活躍していた、生徒会役員と応援団のコメントを紹介します。



★赤連合 前期副団長 吉田千愛さん

天候が心配されましたが、最後まで雨が降ることもなく、無事六煌祭を終了することができました。今年は新型コロナウイルスの影響で例年通り行うことはできませんでしたが、私はこれまで以上に楽しむことができました。

赤連合は、練習時にいろいろ変更が多く、大変な場面もたくさんありました。ですが、赤連のみんなは、協力して、一致団結して応援練習に参加してくれました。そのおかげで万全の状態で当日を迎えることができました。最後まで頑張ってくれてありがとうございました。私自身の目標であった「全力で楽しみ、全力で取り組むこと」を、応援団のみんなと達成することができてよかったです。いつも身近にいて支えてくれた二人。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

私は多くのことを学びました。自分の全力を出せば、その分自分に返ってくる。仲間がいたからこそ楽しめた特別な六煌祭。前期生最後の良い思い出となり良かったです。

★生徒会会計 阿部晏佳さん

異例の六煌祭だった。応援が創作だけになったり、新競技を一から考えたりと、本番のスケジュールも例年と大きく変わるものとなった。

六煌祭の準備期間は、決して楽なものではなかった。一つ問題を解決しても、さらに別の問題が出てくる。例えるならば、いくら考えても答えが出ない難問を解いている気分だ。一筋縄ではいかなかった。詳細を考えれば考えるだけ、問題が出てきた。私は何度か心が折れそうになった。それでも途中で諦めることなく頑張れたのは、間違いなく周りの人の存在がある。多くの制限がかかる中でも、できることに挑戦する応援団や各連合の生徒を見ると、私たちも全力で「今」できる最大限のことをしたかった。当日の本番直前まで、執行部のみんなと、できることに、全力で、立ち向かってきた。終わってから、「楽しかった」という声をたくさん聞いたのが、私はなにより嬉しかった。



★生徒会副会長 増子きよらさん

「ほっとした。やりきれた。」六煌祭の閉会宣言をしていた時に見えた皆さんの顔。涙を流している人もいれば笑顔の人もいる。私の目には達成感でキラキラして見えました。

運営側として初めて臨む六煌祭。いつもと違う初めての六煌祭。そんな「初めて」でいっぱいの日々は私を大きく成長させてくれました。うまくいかないことだらけで自分の力不足を感じていた日々…。三年生の皆さんにもたくさん迷惑をかけてしまったと思います。そんな中、一緒に支え合った生徒会執行部のみんな、「がんばれ」と言ってくれたたくさんの人。周囲の人のおかげでやりきることができました。本当にありがとうございました。

私は六煌祭を終えた今、とても楽しかったと思えます。皆さんの素直な感想をたくさん聞きたいです。六煌祭だけでなく、生徒会として学校生活に少しでも「楽しい」をお届けできるように頑張ります。これからもよろしくお祈りします！

★黄連合 前期副団長 菅原あんりさん

六煌祭おつかれさまでした。今年は新型コロナウイルスの影響で、応援は創作、競技は接触を避けるもののみとなりましたが、その中でも一人一人が全力を出して楽しむことができ、最高の六煌祭になったと思います。

放課後の応援練習では、三年生がどの学年よりも覚えるのが速く、応援団が助けられる場面がよくありました。休憩中にも、みんなで振りの確認をしていたり、私が他学年のところで教えていると手伝いに来てくれたり、とても助かりました。覚えるのが速すぎて、何もすることがなくなり、かえって困ることもあったくらいです。他連合の応援団も、「三年生、覚えるの速い！優秀！」とほめてくれて、さすがだなーと思いました。

前期副団長とはいっても、応援は禁止となり、目立つ役割はありませんでしたが、応援団として六煌祭に関わることができよかったです。今回いろいろとできなかった分、二年後、私たちが五年生になったときの六煌祭、楽しみにしててください！

★緑連合 前期副団長 熊倉鈴菜さん

三年生の皆さん、六煌祭お疲れさまでした。どの連合の創作もすばらしく、よい思い出になりました。青連合は三冠、黄連合は応援賞おめでとうございます。生徒会執行部のみなさん、六煌祭の企画・運営ありがとうございました。

そして緑連合の皆さん、私についてきてくれてありがとうございました。何度も振り付けを変更するなど不手際がたくさんありましたが、本番では成果を発揮することができたので良かったなと思っています。あやふやな指示を出すなど、前期副団長ながらも、しっかりしていない面がたくさんありますが、練習期間や本番が皆さんの良い思い出になっていると嬉しいです。

正直、賞を一つも取れずとても悔しかったです。ですが、こうして行事が一つでもできたので、応援団をして良かったなと思っています。三年生の皆さん、本当にありがとうございました。次はテストと学習合宿がありますが、みんなで頑張っていきましょう。

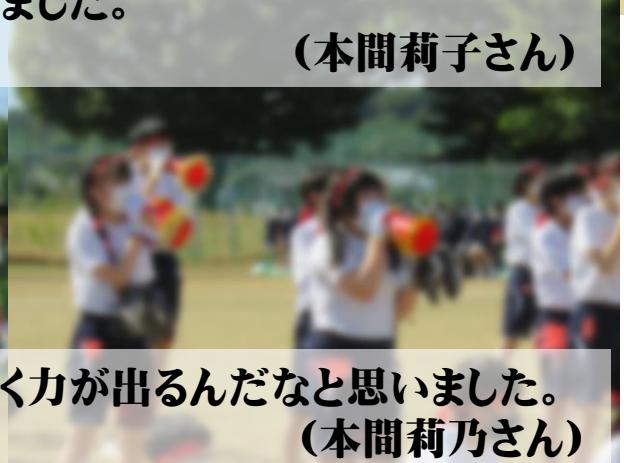
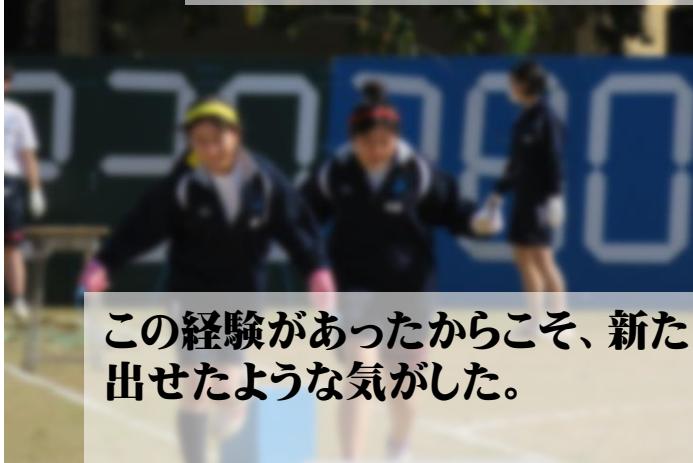
普通に行事ができることの、幸せを感じました。
(鈴木陽奈さん)

応援団がとても仲よさそうに楽しくやっていたので、
私たちも楽しくできました。(高橋碧さん)



失敗してしまうことも多々ありましたが、後輩たちはそんな私を責め
ずについてきてくれました。カッコ悪い先輩でなさないけど、本当
にうれしかったです。
(緒形春太郎さん)

いつの間にか、「どんなに規模が小さくても、絶対楽しんでや
る！」と考えられるようになりました。
(本間莉子さん)



この経験があったからこそ、新たな自分を見つけ
出せたような気がした。
(渡邊優心さん)

誰かに応援されると、すごく力が出るんだなと思いました。
(本間莉乃さん)



ここまで、このメンバーでやれてよかった。
(本間俐帆さん)

一生忘れられない思い出になりました。(伊藤日暖さん)



友達の存在は偉大だと改めて思いました。
(藤田花寧さん)

